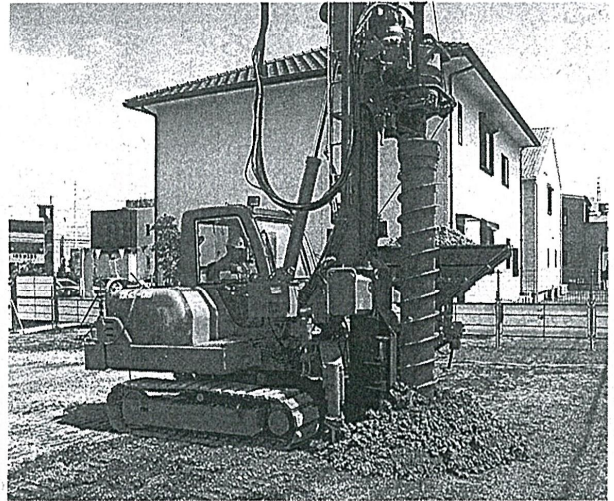


エコな地盤改良 注目

松阪の業者と三重大開発



自然碎石を地中に送り込む装置。重機に取り付け、地面に近い場所に碎石を入れる「受け皿」がある。大台町、尾鍋組提供

松阪市飯高町宮前の建設会社「尾鍋組」（尾鍋哲也社長）と三重大大学のグループが、2010年に開発した地盤改良方法が、東日本大震災の被災地などで注目

されている。自然の碎石で地盤を固める工法は環境に優しく、液状化現象対策への効果も期待されている。「エコジオ工法」と名付

けられた地盤改良法は、10年1月に特許を取得した専用のドリルを使う。8ヶ月前の小型重機にドリルを装着し、そこから2〜3ヶ大の碎石を投入。ドリルの内側から碎石を地中に送り込み、10ヶずつ固めながらド

リルを抜き取る。ドリルの溝を小さくしたことで、抜き取る際に発生する残土の減量化に成功。セメントや鉄鋼など人工物を使わないため、環境面での負荷はほばないという。自然碎石を使った地盤改

良法は、大規模施設の建設では一般的。ただ、土台の重機が100ト前後と巨大でドリルの長さも40メートル近いことから、一般住宅ではなかなか採用されなかった。尾鍋社長は、新工法を全国に普及させようと10年12

月、施工業者14社とともに「エコジオ工法協会」を設立。コストが抑えられることもあって、震災後は全国から問い合わせが相次いでいるという。昨年6月には被災した宮城県内の道路補修工事で試されたほか、茨

城県内では液状化現象対策として効果があるかどうかの試験も行われた。国土交通省が21日、東京都内で開く「新事業展開支援セミナー2013」で、一連の成果が報告される。

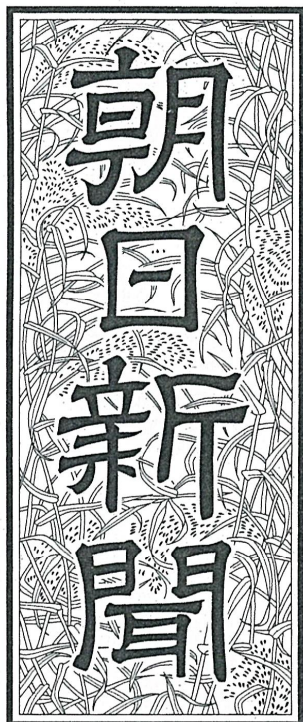
尾鍋社長は「人工物を使った地盤改良で土壌が汚染されると、地価が下落して経済に影響する。環境と経済を守る工法としてもっと広めたい」と話している。（安田琢典）

2013年（平成25年）

2月5日

火曜日

天気	6	9	12	15	18	21(時)	
名古屋	☀	☀	☀	☀	☀	70	12
豊橋	☀	☀	☀	☀	☀	70	11
岐阜	☀	☀	☀	☀	☀	60	12
高山	☀	☀	☀	☀	☀	20	5
津	☀	☀	☀	☀	☀	60	10
尾鷲	☀	☀	☀	☀	☀	20	13
浜松	☀	☀	☀	☀	☀	70	12
東京	☀	☀	☀	☀	☀	10	12
大阪	☀	☀	☀	☀	☀	20	9



朝日新聞名古屋本社

発行所：〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3
電話：052-231-8131 www.asahi.com